

F P まつもと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

新しい年を迎え、穏やかに過ごしのことと思います。令和7年が皆様にとって、より良い年になりますようお願い申し上げます。

今年の干支は「乙巳（きのと・み）」です。「乙」は十干の2番目で、木（き）を表します。芽が出たばかりの柔らかい草木のように、成長を始めた状態を象徴します。「巳」は脱皮を繰り返し成長する蛇（へび）に例えられます。

変化に柔軟に対応しながら成長する一年になりそうですね。

本年もどうぞよろしくようお願い申し上げます。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

宝くじや初詣のお賽銭でどのくらいの金が使われているかご存知ですか？この金額を見ると皆の夢や願いの大きさが想像できますね。

単身世帯、大幅に増加

昨年11月に国立社会保障・人口問題研究所は「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」を発表しました。世帯数は2020年の5,570万5,000世帯から2050年には5,260万7,000世帯へと、30年で5.6%減少します。

世帯数の変化の中で特に気になったのが、高齢者世帯と高齢者世帯に占める単身世帯の増加です。下表は2020年から2050年までの全世帯に占める75歳以上世帯の割合と、75歳以上世帯に占める単身世帯の割合の推移です。

	全世帯に占める75歳以上世帯の割合(%)	75歳以上世帯に占める単身世帯の割合(%)
2020年	19.1	39.1
2025年	22.4	40.4
2030年	23.7	42.2
2035年	23.7	43.9
2040年	24.1	45.3
2045年	25.4	46.4
2050年	28.3	47.2

単身世帯比率の大幅な上昇は、医療費の増大や介護サービス需要の拡大に影響を及ぼすと予想されています。特に介護は、サービスの担い手不足が現時点でも課題になっています。人口問題は一朝一夕で解決する問題ではないため、今のうちからしっかりと準備をしておく必要があるのではないのでしょうか。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後にに向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を、図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、長期の積立投資で成果を得るためには以下が大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

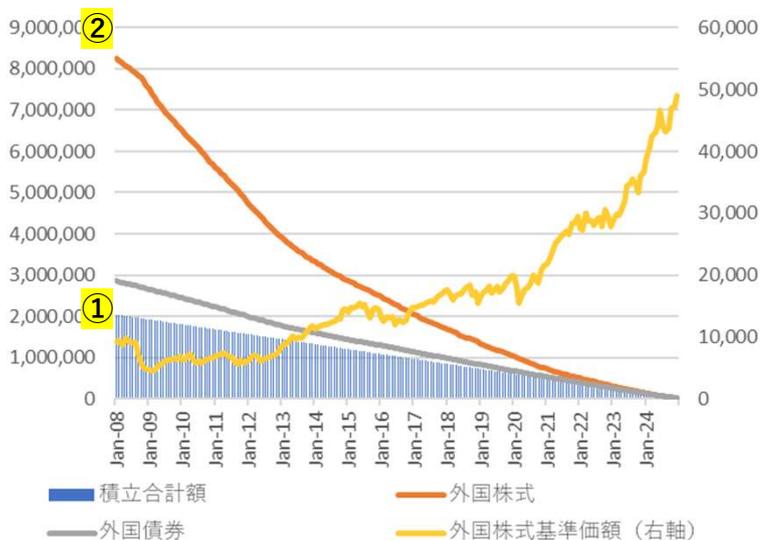
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Oct-24	Nov-24	Dec-24
積立累計額	2,020,000	2,030,000	2,040,000
日本株式	5,077,443	5,059,927	5,271,650
国内債券	1,964,842	1,960,620	1,967,905
外国株式	8,195,345	8,252,275	8,588,042
外国債券	2,893,666	2,843,477	2,940,968

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できます。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①204万円（青棒）は2024年12月に②858万円（オレンジ線）、約4.2倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は以下になります。

最大	2,977,271	2014年7月	～	2024年6月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,406,549	データ数：85		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

2024年のNYダウ平均、12.9%上昇

	日経平均		NYダウ		ドル円
Oct-24	39,081.25	3.06%	41,763.46	-1.34%	151.99
Nov-24	38,208.03	-2.23%	44,910.65	7.54%	149.70
Dec-24	39,894.54	4.41%	42,544.22	-5.27%	156.77

2024年はアメリカ大統領選挙の行方、FRBが金利低下に転じるか、に注目が集まりました。5月にはFRBが早期に利下げに踏み切るのではという思惑から、NYダウ平均株価は史上初めて4万ドルの台を突破しました。8月には景気減速懸念から38,000ドル台まで急落しましたが、9月には4年半ぶりに利下げに転じたことや、11月の大統領選挙で勝利したトランプ氏の減税政策や規制緩和への期待から、45,000ドルの高値を付けました。

12月に入ると、2025年の利下げペースが落ちるとの見通しから、50年ぶりの10日連続安になりました。

2025年は米国企業の業績は良好と予想されていますが、トランプ氏の関税政策などがインフレを再燃させることが懸念要因として意識されています。

株価は短期的には様々な要因で上下しますが、長期的には企業の業績と連動すると考えられます。今まで同様、長期の積立投資では短期的な値動きとそれを解説するニュースに惑わされずに積立を継続することが大切です

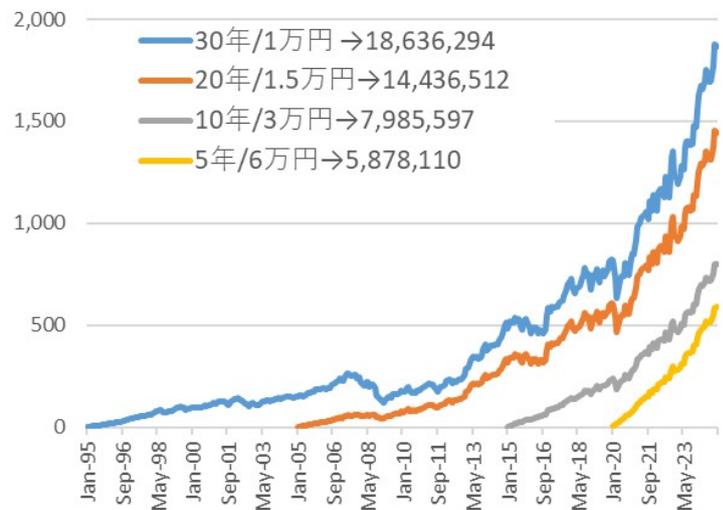
いくら投資するかよりも大事なのは、いつから積立投資を始めるかです

積立投資を始めたいが、余裕がない、少額では意味がないのでは、と考える人もいるのではないのでしょうか？下表は積立期間と運用利回りの関係を表しています。

	毎月	積立総額	3%	5%	7%
5年	60,000	3,600,000	3,874,858	4,068,824	4,271,751
10年	30,000	3,600,000	4,183,440	4,630,895	5,131,552
20年	15,000	3,600,000	4,902,817	6,087,067	7,613,046
30年	10,000	3,600,000	5,787,130	8,153,759	11,694,526

同じ元本であっても積立期間の違いにより結果が大きく異なることがわかります。理論上は長く積み立てることの効果が大きいことがわかりました。では実際の株式への積立投資ではどうなっていたのでしょうか？

下図はNYダウ平均（円換算）に毎月積立した場合の評価額の推移を表しています。積立総額は同じ360万円ですが2024年末時点の評価額は積立期間によって大きく異なっていたことがわかります。



時間をかけることができれば誰でもが資産を築くことができることがわかります。さらに長期の積立では、リーマンショックのような大暴落があったとしても、回復まで待てることも大きなメリットです。

早く始めて長く積立をするのが良いということは分かったが生活費や教育費がかかって貯蓄に回せるお金が余らない、という人もいるかもしれません。そんな場合は「先取り貯蓄」を実行しましょう。

「先取り貯蓄」とは収入の一定の割合を積立投資に回すと決め、残ったお金で生活をするという方法です。

先取り額を決めるためには家計や今後のライフイベントの確認が必要です。先取り額の設定や効果的な積立方法について知りたい方は、お気軽にお問合せください。

ちょっと気になるお金のコラム

年間の宝くじの購入金額、8088億円

年末のジャンボ宝くじは1等前後賞合わせて10億円、10億円あれば・・・と夢を膨らませて購入した人もいたのではないのでしょうか？

2022年（公表されている最新）の年末ジャンボ宝くじの売上金額は1078億円、1枚300円なので約3億5,933万枚、日本人一人当たり約2.8枚購入したことになります。

宝くじを購入するときに、「売り場」や「開運日」などにこだわる人もいますが1等が当たる確率をご存知ですか？下表は年末ジャンボ宝くじの等級ごとの当り本数です。

等級	金額	本数 (23ユニット)	1ユニット当たり の本数
1等	700,000,000	23	1
1等の前後賞	150,000,000	46本	2
1等の組違い賞	100,000	4,577本	199
2等	10,000,000	184本	8
3等	1,000,000	9,200本	400
4等	50,000	46,000本	2,000
5等	10,000	460,000本	20,000
6等	3,000	4,600,000本	200,000
7等	300	46,000,000本	2,000,000

1ユニットは2000万枚なので1等が当たる確率は1/2000万、ということになります。2000万枚を購入すれば1等から7等までのすべての当たり賞金29億9990万円を手にすることができますが、購入代金は60億円（2000万枚 × 300円で計算）となります。少し考えさせられる方もいるかもしれません。

年末ジャンボ以外も含めた宝くじ全体の年間売上は8088億円（令和5年）だそうです。配分の割合は以下の通りです。

当選金	3,780億円	46.70%
公共事業等	2,964億円	36.70%
印刷経費、売りさばき手数料	1237億円	15.30%
社会貢献広報費	107億円	1.30%

10億円の夢をみながら年を越し、はずれても地域の公共事業に役立つと思えばよいかもしれませんね。

初詣のお賽銭は約284億円

年が明けると初詣です。2009年までは警察庁が初詣の入出を公表していました。2009年の正月三が日の全国の初詣参拝者数は約9,939万人だったそうです。2009年当時の日本の人口は約1億2,775万人なので、全人口の約77.8%の人が初詣に行ったことになります。

初詣と言えばお賽銭ですね。2019年の大手生命保険会社の調査によると、お賽銭の全国平均は286円だったそうです。現在の日本人の人口は約1億2,000万人なので、その78%が初詣に行くと約9,481万人、仮に1人当たりのお賽銭額が300円だとすると約284億円になります。

年末ジャンボ宝くじと合わせると、12月から1月にかけて約1,300億円の資金が動いていることになります。

マネープランの重要性

宝くじで夢をみたり、神仏に祈願するのもよいですが、現実的な計画も必要です。今年は団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者になる年です。

医療・年金・介護などの社会保障制度の見直し議論がますます盛んになってくると予想されます。

将来の夢やお子さまの夢を実現するため、備えある老後を迎えるため、自身のマネープランもしっかりと作っておきましょう。

